

2023年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年10月13日

上場会社名 ニッケ(日本毛織株式会社) 上場取引所 東
 コード番号 3201 URL <https://www.nikke.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 長岡 豊
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経営戦略センター財経室長(氏名) 藤原 浩司 TEL 06-6205-6635
 四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年11月期第3四半期の連結業績(2022年12月1日~2023年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第3四半期	80,849	1.1	6,734	△13.2	7,295	△15.9	4,888	△14.6
2022年11月期第3四半期	79,950	4.4	7,762	8.1	8,672	23.6	5,721	120.2

(注) 包括利益 2023年11月期第3四半期 8,205百万円(13.2%) 2022年11月期第3四半期 7,247百万円(78.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第3四半期	69.16	—
2022年11月期第3四半期	78.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年11月期第3四半期	166,493	112,502	67.0	1,587.30
2022年11月期	163,384	107,734	65.3	1,508.32

(参考) 自己資本 2023年11月期第3四半期 111,494百万円 2022年11月期 106,630百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	14.00	—	16.00	30.00
2023年11月期	—	14.00	—	—	—
2023年11月期(予想)	—	—	—	16.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年11月期の連結業績予想(2022年12月1日~2023年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	121,000	11.0	11,000	2.7	11,400	△2.7	7,300	0.2	103.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 0社(社名) 、除外 0社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年11月期3Q	78,478,858株	2022年11月期	78,478,858株
2023年11月期3Q	8,237,342株	2022年11月期	7,784,142株
2023年11月期3Q	70,687,050株	2022年11月期3Q	72,988,438株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料記載の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、上記の予想と実績との間には、今後の様々な要因によって差異が生じる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

ニッケグループは、中長期ビジョン「ニッケグループRN(リニューアル・ニッケ)130ビジョン(2017~2026年度)」(以下「RN130ビジョン」という)において、各事業が魅力的な事業を創造し、今後の更なる企業価値向上に向けて、永続的な成長と発展を目指すことを掲げております。

当連結会計年度は、「RN130ビジョン」の具現化に向けて策定した「RN130第2次中期経営計画(2021~2023年度)」の最終年度であるとともに、「RN130ビジョン」に向けての総仕上げとなる「第3次中期経営計画(2024~2026年度)」を策定する年となります。経済活動の回復にはなお時間がかかり、2023年度も不透明な状況が続きますが、一方で、環境を始めとしたサステナビリティ志向の高まりは新たな機会も生んでおり、これらの変化をチャンスと捉えて各種施策を実行しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高80,849百万円(前年同期比1.1%増)、営業利益6,734百万円(前年同期比13.2%減)、経常利益7,295百万円(前年同期比15.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益4,888百万円(前年同期比14.6%減)となりました。

コスト削減や効率化等を進めるものの、円安による仕入コストの上昇や、資材価格・エネルギー費・物流費高騰の影響等が響き、売上高は増収も減益となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

①衣料繊維事業

衣料繊維事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高21,648百万円(前年同期比5.3%増)、営業利益1,826百万円(前年同期比14.5%減)となりました。

円安による羊毛原料コストの上昇やエネルギー費の高騰が、収益を圧迫しております。

(ユニフォーム分野)

学校制服用素材は、前年同期並みでした。官公庁制服用素材は、警察向け、消防向け共に前年同期並みでした。一般企業制服用素材は、低調でした。

(テキスタイル分野)

一般衣料用素材は、国内販売はスーツ生地の販売が増加し好調でした。海外販売は、英国向けのスーツ生地の販売が増加し好調でした。

(ヤーン分野)

売糸は、ニット関連の販売が大幅に増加し好調でした。

②産業機材事業

産業機材事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高17,443百万円(前年同期比1.1%減)、営業利益652百万円(前年同期比47.6%減)となりました。

(自動車関連分野)

車両向けの不織布や縫製糸・結束紐などは、低調でした。車載電装品他製造ラインのファクトリーオートメーション設備は、顧客からの受注・引合いは回復傾向にあるものの、半導体等の部材入手遅延の影響等により、低調だった前年同期並みでした。

(環境関連分野)

フィルター資材などの環境・エネルギー関連資材は、前年同期並みでした。

(その他産業関連分野)

半導体関連装置や画像検査装置は部材不足により客先への納品遅れが生じ低調でした。OA向け資材、その他工業用資材は、顧客の在庫調整の影響を受け低調でした。

(生活関連分野)

ラケットスポーツ関連は、顧客の在庫調整の影響を受けて低調でした。フィッシング関連は、コロナ特需は一巡したもののOEM受託生産が伸び前年同期並みでした。生活関連資材は、顧客の在庫調整の影響を受け、楽器用フェルトの受注が不調でした。

③人とみらい開発事業

人とみらい開発事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高23,732百万円(前年同期比8.9%減)、営業利益4,929百万円(前年同期比3.1%増)となりました。

(商業施設運営分野)

商業施設運営は、2022年10月にリニューアルしたコルトンプラザで来場者が増加したことに加え、コロナ禍の影響が軽減された為堅調でした。自社所有外の商業施設におけるプロパティマネジメントおよびコンサルティング業務は、前年同期並みでした。

(不動産開発分野)

不動産賃貸事業は、新規契約が成約し堅調でした。ソーラー売電事業は、前年同期並みでした。建設関連は、受注が低迷していることに加え、建築資材の調達遅れ等で工期が延期になり、低調でした。

(ライフサポート分野)

保育関連は、昨年閉鎖した施設の影響がありましたが、既存施設は安定的に推移し前年同期並みでした。介護関連は、コロナ禍の影響が継続しているものの、愛知県あま市に新たに2施設を開業し、入所者数が順調に増加している為、前年同期並みでした。スポーツ関連は、前年同期並みでした。

(通信及び新規サービス分野)

通信関連は、手数料収入が減少し低調でした。新規サービス関連の売上は、コロナ禍の影響で低迷していた児童向けアミューズメント施設の利用者数が回復した事や、持ち帰り商品の需要増加で菓子類販売等が順調で、堅調でした。

④生活流通事業

生活流通事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高15,164百万円(前年同期比17.4%増)、営業利益469百万円(前年同期比40.2%減)となりました。

原材料費の高騰による仕入価格の上昇、競争が激化しているEC事業等での広告宣伝費および物流費の上昇が収益を圧迫しております。

(寝装品及び業務用品分野)

寝装品は、EC向け販売が低調でした。業務用品は、前年同期並みでした。

(生活雑貨分野)

100円ショップ向け等の雑貨販売は、好調でした。家具類の販売は、当期より株式会社インテリアオフィスワンが加わったこともあり大幅な増収となりました。EC向け生活家電の販売は、当期よりサンコー株式会社がグループに加わったこともあり大幅な増収となりました。またフィルム関連は、携帯電話の新規販売台数の鈍化に連動し低調でした。

(ホビー・クラフト分野)

スタンプ販売は、オリジナルスタンプ等が貢献したものの、インクパッドや年賀商材の販売減少により低調でした。スタンプ用インクの販売は、国内販売が低調、海外販売は不調でした。また乗馬用品販売は、前年同期並みでした。

(その他)

保険代理店の経営成績は、前年同期並みでした。コンテナ販売は、大幅な増収となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年1月13日公表の予想数値より変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,500	36,739
受取手形、売掛金及び契約資産	25,032	21,385
有価証券	3,000	1,000
商品及び製品	14,702	18,461
仕掛品	7,037	7,580
原材料及び貯蔵品	2,532	2,862
その他	2,195	3,220
貸倒引当金	△96	△103
流動資産合計	88,904	91,147
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,606	24,729
機械装置及び運搬具（純額）	5,457	5,139
土地	14,972	14,847
建設仮勘定	410	738
その他（純額）	733	661
有形固定資産合計	47,180	46,116
無形固定資産		
のれん	376	1,433
その他	722	773
無形固定資産合計	1,098	2,207
投資その他の資産		
投資有価証券	22,067	23,274
長期貸付金	17	16
破産更生債権等	45	43
長期前払費用	350	309
退職給付に係る資産	547	541
繰延税金資産	1,053	944
その他	2,192	1,963
貸倒引当金	△74	△72
投資その他の資産合計	26,199	27,021
固定資産合計	74,479	75,345
資産合計	163,384	166,493

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,493	9,758
短期借入金	16,309	17,534
1年内償還予定の社債	60	99
賞与引当金	1,660	1,268
未払法人税等	1,758	692
その他の引当金	127	60
その他	7,830	7,074
流動負債合計	38,239	36,488
固定負債		
社債	60	78
長期借入金	2,850	1,482
繰延税金負債	3,320	4,710
退職給付に係る負債	2,729	2,674
長期預り敷金保証金	6,453	6,573
資産除去債務	439	441
その他	1,555	1,541
固定負債合計	17,409	17,502
負債合計	55,649	53,990
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,465	6,465
資本剰余金	4,454	3,997
利益剰余金	96,439	99,106
自己株式	△5,935	△6,499
株主資本合計	101,423	103,070
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,483	7,389
繰延ヘッジ損益	55	251
為替換算調整勘定	668	766
退職給付に係る調整累計額	△0	16
その他の包括利益累計額合計	5,206	8,423
非支配株主持分	1,103	1,007
純資産合計	107,734	112,502
負債純資産合計	163,384	166,493

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
売上高	79,950	80,849
売上原価	55,501	56,939
売上総利益	24,449	23,910
販売費及び一般管理費	16,686	17,176
営業利益	7,762	6,734
営業外収益		
受取利息	13	17
受取配当金	545	564
為替差益	297	91
持分法による投資利益	8	2
賃貸関係収入	168	-
その他	403	186
営業外収益合計	1,436	862
営業外費用		
支払利息	63	71
租税公課	197	39
その他	265	189
営業外費用合計	527	301
経常利益	8,672	7,295
特別利益		
固定資産売却益	120	-
投資有価証券売却益	74	111
関係会社株式売却益	-	86
受取補償金	-	50
補助金収入	-	71
特別利益合計	194	319
特別損失		
固定資産圧縮損	-	71
投資有価証券評価損	46	-
投資有価証券売却損	17	-
事業構造改善費用	-	147
特別損失合計	63	218
税金等調整前四半期純利益	8,803	7,396
法人税、住民税及び事業税	2,573	2,210
法人税等調整額	335	208
法人税等合計	2,909	2,418
四半期純利益	5,893	4,977
非支配株主に帰属する四半期純利益	172	88
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,721	4,888

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	5,893	4,977
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	852	2,908
繰延ヘッジ損益	21	198
為替換算調整勘定	393	103
退職給付に係る調整額	87	17
その他の包括利益合計	1,354	3,227
四半期包括利益	7,247	8,205
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,066	8,106
非支配株主に係る四半期包括利益	180	99

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年7月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式513,900株の取得を行ったことを主な要因として、当第3四半期連結累計期間において自己株式が563百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が6,499百万円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、重要性が増したため、サンコー(株)を連結の範囲に含めております。

第2四半期連結会計期間より、株式を売却したため、(株)ジーシーシーを連結の範囲から除外しております。

当第3四半期連結会計期間より、株式を取得したため、(株)インテリアオフィスワンを連結の範囲に含めております。

(2) 持分法の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注3)	調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計			
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	20,563	17,636	26,048	12,912	77,160	2,790	—	79,950
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	217	143	501	99	962	0	△962	—
計	20,780	17,779	26,550	13,012	78,122	2,791	△962	79,950
セグメント利益	2,135	1,247	4,783	783	8,949	23	△1,210	7,762

- (注) 1. セグメント利益の調整額△1,210百万円には、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,219百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注3)	調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計			
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	21,648	17,443	23,732	15,164	77,989	2,860	—	80,849
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	523	147	631	43	1,346	0	△1,346	—
計	22,171	17,591	24,363	15,208	79,335	2,860	△1,346	80,849
セグメント利益	1,826	652	4,929	469	7,878	74	△1,218	6,734

- (注) 1. セグメント利益の調整額△1,218百万円には、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,229百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計		
売上高							
(1)顧客との契約から生じる収益	20,514	17,477	23,672	12,912	74,575	2,790	77,366
(2)その他の収益(注2)	49	159	2,376	—	2,584	—	2,584
計	20,563	17,636	26,048	12,912	77,160	2,790	79,950

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

2. 「その他の収益」はリース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計		
売上高							
(1)顧客との契約から生じる収益	21,590	17,282	21,233	15,164	75,270	2,860	78,131
(2)その他の収益(注2)	57	161	2,499	—	2,718	—	2,718
計	21,648	17,443	23,732	15,164	77,989	2,860	80,849

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器販売等を含んでおります。

2. 「その他の収益」はリース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。